

# 特集

## 平成19年度市の予算と主な取り組み

# 住みよい環境づくり



ここからは、平成19年度の当初予算についてお知らせします。前述のとおり、危機的な財政状況の中、昨年度に引き続き、財政健全化を進めながら予算を編成しました。限られた財源を重点的に、効率的に配分し、福祉、環境や教育施策などを円滑に実施することを基本方針としています。

一般会計予算は、141億3,440万円(前年度当初比0.2%増)、特別会計(11会計)は、17億9,428万円(前年度当初比17.0%増)、事業会計(2会計)は31億7,558万円(前年度当初比2.0%減)となりました。全会計の総額では、348億426万円(前年度当初比7.7%増)です。

予算編成にあたっては、収入の伸びが期待できない中、義務的経費にあたる過去に借り入れた市債の償還金である公債費と、医療費や児童手当、生活保護費などの扶助費の増加などに対応するため、事務事業の見直しや人件費の削減などによる経常的な経費の節減に積極的に取り組みました。

また、下水道や道路整備、障害者支援施設整備などの緊急性を要する継続事業に重点的に配分し、新規事業については事業の必要性を再検討するなど対応しています。しかしながら、財源不足の解消には程遠く、不足する財源については、貴重な基金から多額を補うことにより対応せざるを得ない予算編成を余儀なくされています。

### 歳入(入ってくるお金)

歳入は、国の「三位一体改革」による本格的な税源移譲の実施や定率減税の廃止により、市税は前年度当初比9.6%(3億9,260万円)の増を見込んでいますが、その代わりに国からの所得譲与税などの制度が廃止となっています。

市債は、今後の公債費・市債残

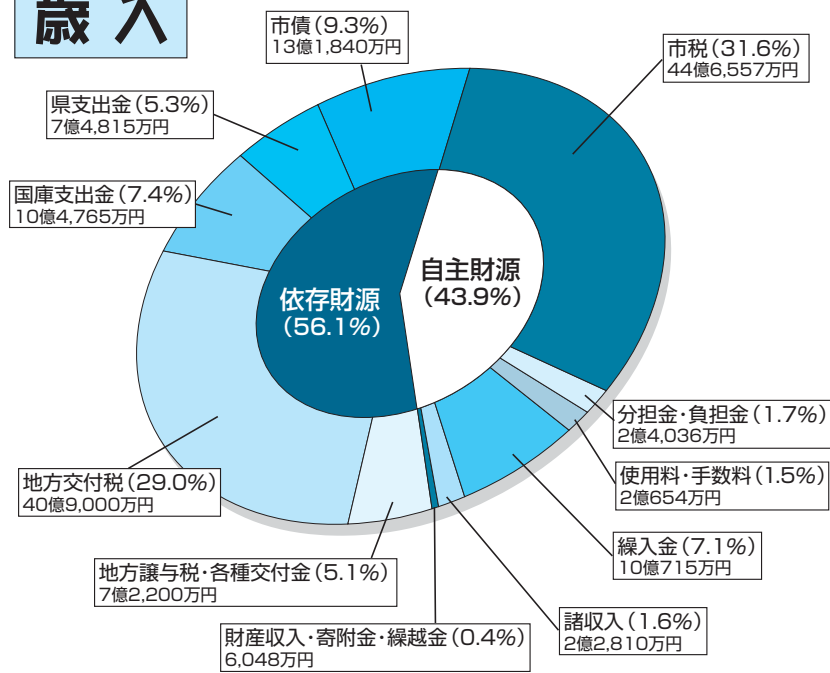
### 歳出(使うお金)

高を抑制するため、建設事業の緊急性・優先度を考慮し最小限に抑えることなどにより、13億1,840万円(前年度当初比27.2%減)となっています。さらに、財源不足を補うため、やむを得ず基金から9億5千万円を繰り入れました。

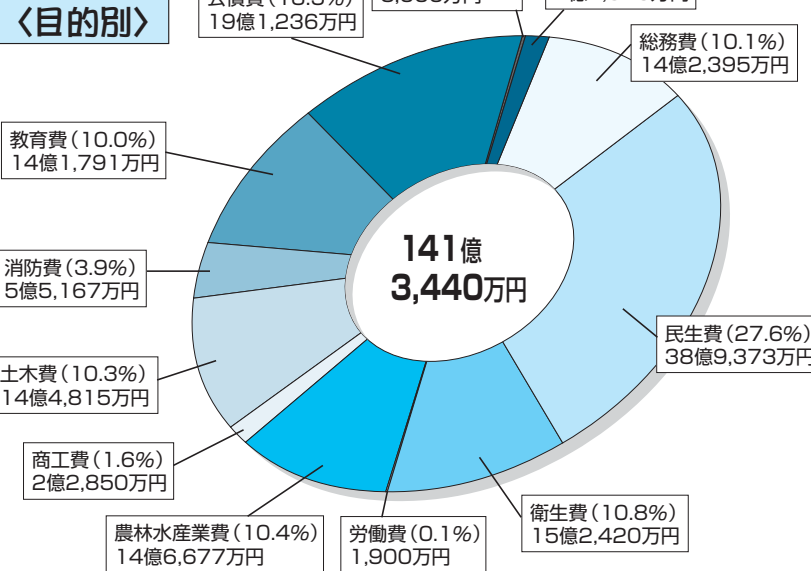
歳出は、住みよい環境づくりなどのため、昨年度以前からの継続事業である下水道・観光センターの整備、合併特例債を活用した市道南北線の新設、障害者総合在宅支援施設・教育情報ネットワークの整備などのほか、防災対策事業、子育て支援事業に要する経費を重点的に計上しました。

## 一般会計 141億3,440万円

### 歳入



### 歳出



### 財政健全化に向けた取り組み状況

区分	節減額	主なもの
受益者負担の適正化	15.6	督促手数料・健康診査受益者負担金の見直し
事務事業・経常的経費などの見直し	194.5	内部管理経費の節減・宿日直業務の見直し
各種補助金などの見直し	37.2	各種団体活動補助金などの見直し
人事管理・給与などの適正化	81.1	職員数の削減・職員手当の見直し
計	328.4	

(単位：百万円)

※一般会計・特別会計における18年度当初予算との比較額。